

次期教育等の振興に関する施策の大綱の策定について

◆策定作業に向けて留意したいポイント（案）

- ✓ 「目的」「目標」と「手段」「手法」を混同させない構成にする。
- ✓ KPIについて、アウトカムのKPIとアウトプットのKPIの違い等を意識して、精査して設定する。
 - ※アウトプットは「業務の結果」、アウトカムは「成果」
例) 「信号機を増設する」（アウトプット）、「交通事故が減る」（アウトカム）
- ✓ 県内の多くの教育・学校関係者が「自分事」として捉えられるような計画とする。
- ✓ 策定にあたって、様々な関係者の考え方や意見を聴き、対話をすることを意識する。

第3期教育大綱の体系図の構成案（たたき台）

①

基本理念である目指すべき人間像

②

基本理念にむけて、誰一人取り残されず全ての子どもたちの可能性を引き出す。

③

個別最適・協働的な学びを通じて、主体的・対話的で深い学びを実現

④

● ● ●

⑤

◆

◆

● ● ●

◆

◆

...

● ● ●

◆

◆

● ● ●

◆

◆

...

● ● ●

◆

◆

● ● ●

◆

◆

...

基本理念に向けて、生涯、どこでも「学び」を通じて活躍できる

◆

◆

.....

左から順に決めていく流れ（目的⇒目標⇒手段の順序で決めていく。混合させない。）



体系図案（たたき台）の各部分の論点【1】

①

- ✓ 現行の基本理念の2つの人間像

「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく
夢に向かって羽ばたくこどもたち」

「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を
掲げ、日本や高知の未来を切り拓く
人材」

②

基本理念
にむけて、
誰一人取
り残され
ず
全ての
こどもた
ちの可能
性を引き
出す。

- ✓ 現行の大綱・計画では、知・徳・体の基本目標・測定指標に相当する部分

- ✓ 知・徳・体の測定指標の検討にあたっては、「底上げ」の視点に加えて、「優良層の更なる向上」「二極化の解消」の2点の要素も意識して検討が必要

など

知 (1) 知の分野の目標

子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む

<測定指標>

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、
 - ・小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す
 - ・中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
 - ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

- ▶R4年度全国学力・学習状況調査結果(対象:小6、中3)
 - 小学校:国 +0.7 算 +2.5 理 -0.3
 - 中学校:国 -1.9 数 -5.0 理 -2.8

◇小学校(第6学年)

数値は全国平均正答率との差

評価の観点		R4年度
国語	知識・技能	72.9 (+2.4)
	思考・判断・表現	61.4 (-0.6)
算数	知識・技能	70.4 (+2.2)
	思考・判断・表現	59.6 (+2.9)
理科	知識・技能	62.0 (-0.5)
	思考・判断・表現	63.5 (-0.2)

◇中学校(第3学年)

評価の観点		R4年度
国語	知識・技能	67.4 (-1.6)
	思考・判断・表現	60.7 (-1.6)
数学	知識・技能	52.9 (-7.0)
	思考・判断・表現	34.8 (-1.4)
理科	知識・技能	42.9 (-3.2)
	思考・判断・表現	48.3 (-2.7)

() は全国平均正答率との差

②高等学校

- 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

- ▶R4年度学力定着把握検査Iの結果(2年生1月):21.7%
(県立高等学校のうち、進学に重点を置く学校を除いた29校の平均)

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

- ▶R3年度卒業生に占める進路未定者の割合:5.0%

徳 (2) 徳の分野の目標

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む

<測定指標>

- 児童生徒質問紙調査における道徳性等(自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など)に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

- ▶R4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果

「自分には、よいところがあると思う」:
小学校 78.8% (-0.5) 中学校 80.9% (+2.4)

「将来の夢や目標を持っている」:
小学校 78.1% (-1.7) 中学校 71.3% (+4.0)

「人が困っているときは、進んで助けている」:
小学校 88.7% (-0.2) 中学校 88.4% (±0)

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」:
小学校 52.6% (+1.3) 中学校 45.1% (+4.4)

※各質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合
() は全国平均との差

- 生徒指導上の諸課題(不登校、中途退学)の状況を全国平均まで改善させる

- ▶R3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

- ・1,000人あたりの不登校児童生徒数(国公私立):
小中31.2人(全国25.7人)、高校18.0人(全国16.9人)
- ・中途退学率(国公私立):1.5%(全国1.2%)

<参考>

- ・不登校児童生徒のうち、学校内・外で相談・指導等を受けている割合(国公私立):
小中92.6%(全国63.7%)、高校65.0%(全国59.4%)
- ・1,000人あたりのいじめ認知件数(国公私立):
小中高特支55.1件(全国47.7件)
- ・1,000人あたりの暴力行為発生件数(国公私立):
小中高10.7件(全国6.0件)

体 (3) 体の分野の目標

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる

<測定指標>

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る

- ▶R4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

(対象:小5、中2)
(数値はT得点(全国平均=50))
小学校:男子50.5 女子50.6
中学校:男子50.2 女子50.7

- ・総合評価※でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

- ▶R4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

(対象:小5、中2)
小学校:男子34.1% (+2.6)
小学校:女子28.4% (+4.0)
中学校:男子32.3% (+3.7)
中学校:女子16.6% (+2.4)
() は、県の過去4年間(H28~R元年度)の平均値との差

※総合評価:体力テスト合計得点のよい方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価

知・徳・体の各目標の達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、それぞれの目標に測定指標を設定し、P D C A サイクルに基づく進捗管理を徹底

体系図案（たたき台）の各部分の論点【2】



- ✓ ③は複数の④、④は複数の⑤（◆）が位置づけられている構成。
言い換えれば、⑤が全て達成できたら④の実現に至り、④が全て達成できたら③の実現に至るという構成となる。
- ✓ ⑤（◆）単位で、当該項目を「達成・実現できた」と評価できる指標となるKPIをアウトカムをできる限り意識して設定する。当該KPIは年度毎に設定。
- ✓ 年度毎に⑤（◆）単位で設定したKPIが達成できていない場合には、年次改訂にあたっての対象とする。
具体的には、総合教育会議等における年次改訂の議論の際に、当該⑤の項目に関わる施策・事業の進捗に課題はないかを提示し、年次改訂が必要か否かを検証する。
なお、⑤（◆）単位で設定したKPIが達成している項目についても、社会情勢等を照らして、関わる施策・事業の検討や、⑤単位での加除等の変更を検討することはあり得る。

次期教育大綱等の策定に向けた関係者との対話について（予定）

次期教育大綱等の策定にあたって、従前では意見等をお伺いしてこなかった様々な関係者にも「教育」「学校」の在り方等についてご意見やお考えを聞き、必要に応じて次期教育大綱等の内容にも反映させる取組を実施予定。

◆対話やご意見等をお聞きする方々

- ✓ 教職を目指す大学生
- ✓ 若年・中堅の教職員

✓ 高校生（高等学校・特別支援学校に通う生徒）

など

①高校生や若者の「教育」や「学校」についての声募集

②次世代総合教育会議の開催



※いずれも教育大綱等を策定するにあたっての取組としては初めて実施する。

次世代総合教育会議の開催

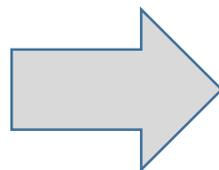
- ✓ 様々な社会の目まぐるしい変化等を見据えたなかで、社会に出た時に必要な力を身に付ける場である学校がどのようなところであるべきか、

「私たち、高知県、そして日本の未来を考えて、理想的な学校の姿とは何か。」

というテーマで、県内の高等学校・特別支援学校高等部に通う委員から意見発表をいただき、意見交換を行う。

- ✓ 会議の委員は、設置者・地域・専門等を踏まえ、県内の高等学校・特別支援学校の5校に通う生徒で構成。
また、知事、教育長等も意見交換に参加予定。
- ✓ 会議で発表された意見等については、次期教育大綱等の策定の検討にあたって参考とする。
- ✓ 会議の開催日時は令和5年7月31日（詳細は後日公表）。





学校

今後、学校を卒業して
社会に出た後に
必要な力を身につける

「必要な力」
とは何か

社会

社会・世界は
どのような状況？

今、そしてこれからの社会は、
一言で言うと・・・

「当たり前」だと思っていることが
当たり前ではないかもしれない世の中



現代・将来は、変化が激しく、予測不可能なことが次々と起こる時代。

このことを **VUCA時代** と言うことがあります。

Volatility

変動性

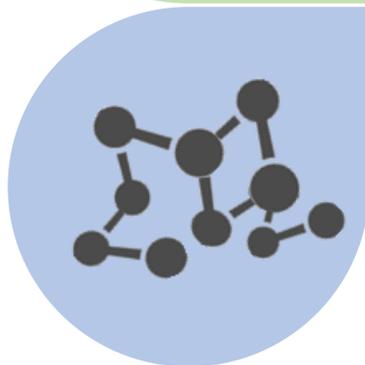
変化が急速で、
激しい



様々な要素が
複雑に絡み合う

複雑性

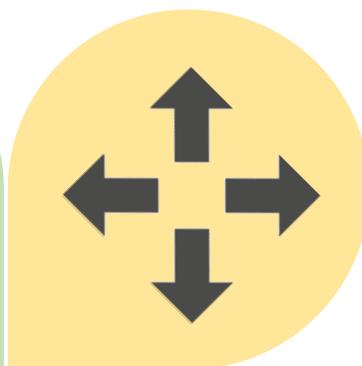
Complexity



Uncertainty

不確実性

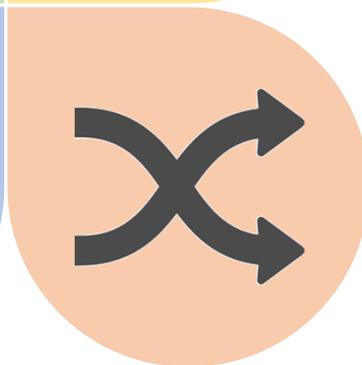
将来を予測する
ことが難しい



色々な
考え方や視点等があり
単純な正解がない

曖昧性

Ambiguity



Volatility 変動性

変化が急速で、激しい

技術革新等によって、「最新」「現実には難しい」と思っていたものも、気づいたらすぐに「当たり前」になるかもしれない。

最新のもの！
私しか持ってない！

そんなこと、
実際にはできない！
フィクションの世界！



数年もすると・・・



どんな最新の技術も、
この繰り返し。
そして、そのスピードも
どんどん早くなっている



普通ですね。はい。
当たり前というか・・・

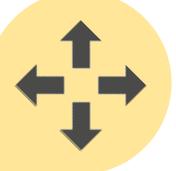
みんな、
仕事や生活で結構
使ってますね。

AIが問題の答えを出したり、小説や絵を描いたりする。

ドローンが荷物を運んだり、車が空を飛ぶ。

仮想（バーチャル）空間でもう一人の「自分」が活動する。

今は「最新」のもの
数年後はどうなる・・・？



Uncertainty 不確実性

将来を予測することが難しい

これまでに全く予測できなかったことが起こってしまう。
今の「当たり前」は将来は「当たり前」でないかもしれない。



新型コロナウイルス感染症
等の感染症



人口の変動



気候変動・自然災害



将来



国際情勢

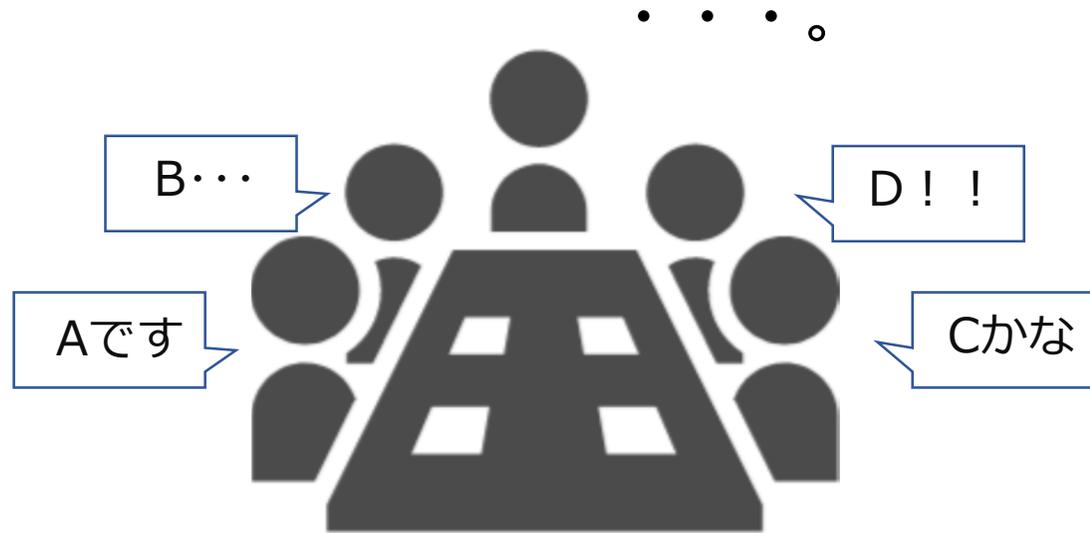
新型コロナウイルス感染症などの感染症の発生、少子高齢化などの人口変動、
気候変動や自然災害等の発生、国際情勢の変化・・・
様々な事柄が、色々な要因によって予測が難しくなっている。

※「VUCA」の意味は、様々な捉え方があります。この資料における分類・説明は一つの例です。

Complexity 複雑性

様々な要素が複雑に絡み合う

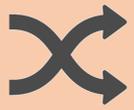
様々な事柄・意見が複雑に絡み合い、解決策まで至るのが困難。「当たり前」は、人や場所等によって違うかもしれない。



例えば、グローバル化・ボーダーレス化等によって、様々な立場の方々と交流するようになる。

その結果、様々な習慣、文化、ルール等が関わり合い、一つの解決策まで到達するのが難しくなっている。

※「VUCA」の意味は、様々な捉え方があります。この資料における分類・説明は一つの例です。



Ambiguity 曖昧性

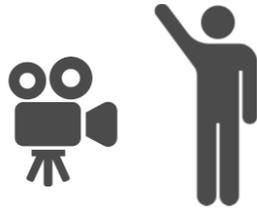
色々な考え方や視点等があり、
単純な正解がない

様々な考え方・視点・立場があり、固定的ではなく流動的で、
多様。一つの決まった「当たり前」はないかもしれない。

例えば、



ある時は
情報を入手する人



ある時は
情報を配信する人



様々な生き方、生活の仕方、仕事の仕方

様々な技術の発展や、SNSの普及による情報の展開等によって、

今まで一部の人だけが実施できてたことを
多くの人の実施することが可能となる。

色々な生き方、生活・仕事の仕方を知り、
それを実現することができる。

一つの正解がない、新しかったり、多種多様な物事・価値観が存在する世の中。

高知県、日本、世界の今、そして今後は、
例えば、このような状況。

そんな社会に出て行く、
私たちが今過ごす

学校

はどのような場所
あるべきなのだろう・・・。



学校

何を学ぶべき？

先生はどうあるべき？

何故このルール？

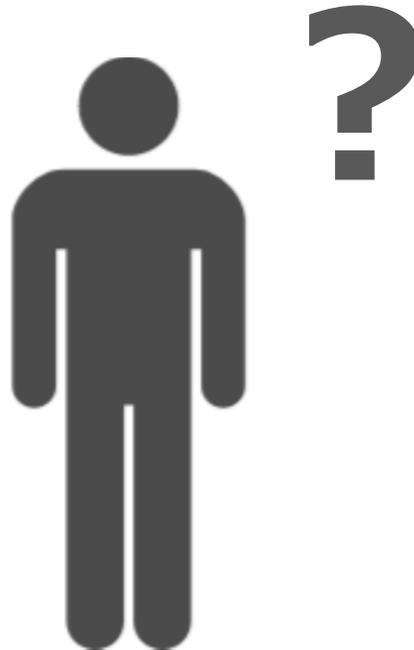
何を大事にしたい？

何が楽しい？
何が変？

私たちはどうすべき？

どうしたらよくなる？

何をやめた方がいい？



私たち、高知県、
そして日本の未来を考えて、
理想的な学校の姿とは何か。

次期教育大綱策定に向けた令和5年度の主なスケジュール

※本日以外の日程は全て予定

- 6月13日 総合教育会議
：次期大綱等策定の考え方（案）等について協議
- 7月31日 次世代総合教育会議
- 9月1日 総合教育会議
：次期大綱等の方向性案について協議
- 11月30日 総合教育会議
：次期大綱等の骨子・体系案について協議
- 1月15日 総合教育会議
：次期大綱等の原案について協議
- 1月～2月 パブリックコメント
- 3月 策定

參考資料

「教育等の振興に関する施策の大綱」（教育大綱） 「高知県教育振興基本計画」（基本計画） の位置づけ

◆教育大綱の法的根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第1条の3 地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針（※）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。

2～4 （略）

◆基本計画の法的根拠

教育基本法

第17条 （略）

2 地方公共団体は、前項の計画（※）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

（※）どちらも国の教育振興基本計画のこと

基本理念 ～目指すべき人間像～



1. 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち
2. 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

知

知の分野の目標

○子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。

測定指標

- ①小・中学校
 - 全国学力・学習状況調査において、小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる。
 - 小・中学校ともに全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする。
- ②高等学校
 - 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする。
 - 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする。

徳

徳の分野の目標

○社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。

測定指標

- 児童生徒質問紙調査における道徳性等（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など）に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる。
- 生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる。

体

体の分野の目標

○生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる。

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
 - ・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る。
 - ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる。

R2～R5年度 基本方針・横断的な取組

<6つの基本方針>

- I チーム学校の推進
- II 厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実
- III デジタル社会に向けた教育の推進
- IV 地域との連携・協働
- V 就学前教育の充実
- VI 生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保

<6つの基本方針に関わる横断的な取組>

- 1 不登校への総合的な対応
- 2 学校における働き方改革の推進



R3年度 第1次改訂のポイント

◆新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた改訂

- 1 デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築
- 2 多様な子どもたちの社会的自立に向けた就学前から高等学校までの切れ目のない教育の充実
- 3 不登校への重層的な支援体制の強化
- 4 系統的な体力・運動能力の育成に向けた取組強化
- 5 きめ細かな指導体制の整備と学校における働き方改革

R4年度 第2次改訂のポイント

◆コロナ禍や急激に変化する時代の影響を踏まえた改訂

- 1 質の高い教育の実現に向けた組織的な取組強化
- 2 デジタル技術を活用した学習スタイルの充実等
- 3 多様な子どもたちへの支援の充実
- 4 不登校への重層的な支援体制の強化
- 5 学校における働き方改革の加速化
- 6 学びをつなげる環境教育の推進
- 7 グローバルな視点での教育の推進

第2期教育大綱及び第3期教育振興基本計画 第3次改訂ポイントと令和5年度の主な取組

- ◆ デジタル化、グローバル化、少子高齢化・人口減少などによって生じた社会の変化は、新型コロナウイルス感染拡大による影響や、国際情勢の不安定化等によって、さらに加速度が増し、将来の予測が困難な時代に至っている。
- ◆ すべての子どもたちが誰一人取り残されず、自らの「可能性」を最大限に発揮でき、社会や時代の変化に応じて課題を発見・解決する力を身につけられる学びを実現するためには、飛躍的に進展するデジタル技術等を「日常的」に活用した学習スタイルの展開や、多様化・複雑化する子どもたちの状況に応じた教育や支援を強化する必要がある。
- ◆ 基本目標の達成に向けて、第2次改訂の取組の方向性として定めた「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の観点や、これまで3年間（R2～4年度）の取組や成果・課題等を踏まえ、第2期教育大綱及び第3期教育振興基本計画の取組をさらにバージョンアップし、本県のさらなる教育振興を図る。

本県の喫緊の教育課題解決のため、教育施策をさらに強化！（今期大綱及び基本計画の目標が達成できるよう、関係機関とも連携強化）

改訂ポイント1「学力向上対策の強化」

- ① 授業改善による学力向上（授業づくり講座の拡充、指導と評価の一体化の実現に向けた支援強化、1人1台タブレット端末の効果的な活用等）
- ② 学力調査結果等を踏まえた中学校における対策強化（PDCAサイクルの確立、授業改善の取組強化等）
- ③ 基礎学力の定着に向けたデジタル技術の活用の推進（学習習慣の定着に向けた対策含む）
- ④ 高知市学力向上推進室の取組成果や課題を踏まえた高知市との連携による施策の強化



改訂ポイント4「多様な子どもたちへの支援の強化」

- ① 学校と県・市町村福祉部署との連携強化（ヤングケアラーへの支援、児童虐待対応等）
- ② 不登校担当教員配置校や校内適応指導教室モデル校等での効果検証を踏まえた不登校対応強化や、多様な教育機会の確保などの新たな観点による取組の検討、親育ち支援強化等
- ③ 就学前から高等学校等までの切れ目のない特別支援教育の推進
- ④ 各学校における「発達支持的生徒指導」の推進

【再掲】ポイント1③、ポイント2③

改訂ポイント5「地域・学校の実情に応じた学校部活動の地域連携等の推進」

- 子どもたちのスポーツや文化芸術活動機会の格差解消に向けた学校部活動の地域連携や地域移行の在り方等についての検討
- √ 国が令和5～7年度を公立中学校における休日の学校部活動の地域連携や地域移行のための改革推進期間と位置付けたことを受け、学校部活動の地域連携や地域移行の在り方、地域スポーツ・文化芸術環境の整備等について検討



個別の教育課題の解決に向けた取組強化

- ① 保幼小の円滑な連携・接続の強化、幼児期の教育に関する周知・啓発の充実
- ② 高知県版地域学校協働本部やコミュニティ・スクール等を通じた「地域力」の活用促進
- ③ 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた研修の充実
- ④ 学校における働き方改革の実現に向けた取組の拡充（教職員の意識改革、ICT活用による業務の効率化等）
- 学びをつなげる環境教育（グリーン化）やグローバルな視点での教育（グローバル化）の一層の推進

改訂ポイント2

「1人1台タブレット端末を『日常的』に活用する授業実践・教育活動の推進」

- ① 1人1台タブレット端末及び学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用促進（スタディ・ログ活用含む）
- ② 教員のICT活用指導力の向上に向けた取組の充実
- ③ ICTの活用による不登校児童生徒等への多様な支援の充実
- ④ ICTを活用したモデル授業や取組の普及促進



【再掲】ポイント1①③、ポイント3

改訂ポイント3「中山間地域等の学校における教育機会の拡充」

- ① 県立高校等における遠隔教育の量・質の拡充（生徒のニーズに応じた遠隔授業・補習、高知版CORE遠隔教育ネットワーク構想の推進等）
- ② 小規模中学校における免許外指導担当教員への遠隔教育システムを活用した支援の拡充
- ③ 小学校複式学級における遠隔授業に関する研究

基本理念

子どもの成長

6つの基本方針

6つの基本方針の実現に向けた施策群

学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

知の分野

学びに向かう力
思考力・判断力・表現力
知識・技能

徳の分野

他者と協働する力
自己肯定感・規範意識

体の分野

基本的な生活習慣
健やかな体力

知・徳・体の調和のとれた生きる力

I チーム学校の推進

II 厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に
応じた教育の充実

III デジタル社会に向けた
教育の推進

IV 地域との連携・協働

V 就学前教育の充実

VI 生涯学び続ける環境づくりと
安全・安心な教育基盤の確保

I-1 チーム学校の基盤となる組織力の強化

I-2 チーム学校の推進による教育の質の向上

II-1 多様な課題を抱える子どもへの支援の充実

II-2 特別支援教育の充実

III-1 デジタル技術の活用による学びの個別最適化

III-2 創造性を育む教育の充実

IV-1 中山間地域をはじめとする各地域の教育の振興

IV-2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

V-1 就学前の教育・保育の質の向上

V-2 親育ち支援の充実

VI-1 生涯にわたって学び地域社会に生かす環境づくり

VI-2 私立学校の振興 VI-3 大学の魅力向上

VI-4 文化芸術の振興と文化財の保存・活用

VI-5 スポーツの振興 VI-6 児童生徒等の安全・安心の確保

6つの基本方針に関わる横断的な取組

1 不登校への総合的な対応

2 学校における働き方改革の推進